

〔ピアノ伴奏上の留意点と本法理解のポイント〕

- ① 譜例は、ピアノ伴奏用にあくまでも簡素化した基本的パターンなので、テンポ、リズム、ノリ、抑揚、装飾音、オブリガード等、は各自工夫してください。特に、リズムパターンを変えたりするとまったく新しい雰囲気になったりするので、色々やってみると良い
- ② 右手のコード音のヴォイスング、転回形は各自の好みにより自由にさせていただいて構いません
- ③ 伴奏しながら、対象者の音に耳を傾ける（当然！）
- ④ コードパターンを道案内するつもりで各パターンにはメロディが付いています。しかし、これはあくまでも筆者のイメージです。活動の際、声よるメロディ支えなど工夫し、パターンイメージを対象者に提供しても良いし、逆に活動プロセスによっては、パターンイメージを提示せず対象者に任せても良い
- ⑤ Verse ⇒ Bridge ⇒ 再び Verse、となっていますが、Bridge を省き、Verse を延々と繰り返してもよいし、自分の好きな他の Bridge パターンにしても OK
- ⑥ 打楽器やリズムボックス等によりリズム支えを試みたり、時にはオルガン系ロングトーンで即興してみても良い雰囲気が出る

《対象者側の音設定について》

⇒下記の7パターンがおもなものです、あくまでも自身の耳で判断されることをお勧めします

- ① 白鍵のみのダイアトニック・パターン（ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ）
- ② ファ・シ抜きのパentaktonic
- ③ ファ・シ抜きのパentaktonicにファかシのどちらかを足した6音
- ④ メジャー（長調）系パターンには、沖縄風音階（レ・ラ抜き）も可
- ⑤ マイナー（短調）系パターンには、レ・ソ抜き平調子（陰旋法）も有効
- ⑥ モードモーションを用いたパターンには、ラ or ド開始にした場合の黒鍵を外した音（ファ♯、時にミ）が使い易いかとは思われるが、その限りでもない
- ⑦ - i) メジャーのブルース系パターンは、イ長調（A-Major）とし、ド・レ・(♭ミ)・ミ・ソ・ラを用いる
- ii) マイナーのブルース系パターンには、やはりファ・シ抜きペンタ